

シルバー 「ぼうさい探検隊」 プログラム

はじめに

高齢社会を迎えた我が国において、地震や台風・豪雨・洪水などの自然災害への備えという点で、高齢者への防災・安全意識啓発は重要な課題となっています。

行政でも「災害時要援護者支援マニュアル」や「防災対策行動マニュアル」等の作成・配布、防災訓練などを通じて防災意識の啓発や災害時への備えを呼びかけている状況です。

この**シルバー「ぼうさい探検隊」プログラム**は、災害時の避難ルートを実際に歩きながら周囲の状況を観察し、「万一のときでも慌てず安全な避難ができる」ことを目的としています。

災害時に一人でも多くの高齢者の方々が安全に避難できるように、また地域で助け合いながら犠牲者を最低限に食い止めるために、ぜひこのプログラムをご活用ください。

災害の被害を最小限に抑えるためには、
「自助・共助・公助」の取組みと連携が大切です。
「ぼうさい探検隊」を通して、「自助・共助」の
取組みを強化するとともに、安全なまちづくりに向
けての提言に役立ててください（「公助」の強化）。



シルバー 「ぼうさい探検隊」の目的

ステップ1：避難場所へのルートや 避難施設をしっかりと覚えましょう

高齢者は地域の事に詳しいはずと思われがちですが、災害時の避難場所を知らない方は意外と多いものです。
万一の時に慌てず落ち着いて行動できるよう、避難場所やルートをしっかりと確認しましょう。

ステップ2：避難時にケガをしないように、 危ない場所を確認しましょう

災害時には誰もが冷静さを失い、慌てて行動してしまいます。避難時に転んでケガをしたり、崩れた塀に道をふさがれることもあります。
災害発生時をイメージしながら、まちの危険箇所を見つけてみましょう。

ステップ3：まちの改善ポイントを見つけ、 皆で情報を共有し、提言しましょう

まちなか探検を通して、まちの危険箇所や改善点を見つけ、地域に情報を発信し共有しましょう。
また、改善すべき点が見つければ行政や町内会・老人会・災害NPO団体などに提案し、安全で安心なまちづくりを進めましょう。

シルバー 「ぼうさい探検隊」の進め方



まちなか探検（60～90分）

自宅またはその近くの公共施設に集合し、周囲を観察しながら災害時の避難場所まで歩いてみましょう。

マップづくり（60～90分）

まちなか探検で確認したことや発見したものを、マップに記入していきましょう。まちの改善点や提言についても話し合しましょう。



発表（15～30分）

マップを示しながら、気づいたことや感じたことを発表します。「災害時、どこに危険があるのか」「どうすれば安全に避難できるのか」をみんなで話し合しましょう。

チェックポイントと解説

災害発生時に頼りになる施設や設備には、次のようなものがあります。

- **避難場所** …避難ルートの確認をしながら、歩いてみましょう。
- **コンビニ** …災害時の安全ステーションになります。
- **ガソリンスタンド** …コンビニと同じく、災害時の安全ステーションとなります。
- **公衆電話** …災害時は携帯電話が使えないことがほとんどですが、公衆電話は一般の電話よりも優先的に通話が繋がる措置がとられています。場所を確認しておきましょう。
- **病院** …ケガをしたり病気の発作が起きた時のために、救急病院や外科の場所を知っておきましょう。
- **消防署、交番** …災害時に頼りになる、消防署や交番などの場所を確認しておきましょう。
- **その他の公共施設** …避難場所まで辿り着けない時のために、場所や機能を知っておきましょう。
- **消火栓、防火水槽** …消防隊やレスキューの妨げにならないためにも、場所を覚えておきましょう。



こんな場所に注意しましょう

災害時の避難をイメージしながら、次のような場所を確認していきましょう。

□ 壊れそうなブロック塀、倒れそうな自動販売機、崩れそうなガケ

…避難時に崩れてくる危険のほか、道がふさがれて通れなくなることがあります。

□ 急な坂道、手すりの無い石段、ふたの無い側溝

…避難時に慌てて足を滑らせたり、階段を踏み外したりするおそれがあります。歩道と車道の段差のあるところなども確認しましょう。

□ 交通量の多い道路、見通しの悪い交差点

…災害時には交通機関が大きく混乱することが予想されます。日頃から、避難場所までの交通状況を確認しておくことが大切です。

□ 標識や表示の見えにくい場所

…災害時に使用する消火器や消火栓などの防災設備の標識などで、わかりにくいところはないか確認しておきましょう。



「ぼうさい探検隊」終了後に必ず確認しましょう

いざというときに備えて、次の2つをもう一度たしかめておきましょう。

□ ルートの再確認

…避難経路のなかで危険なところと安全なところを再度確認しましょう。

□ 距離と時間の再確認

…自宅～集合場所～避難場所までの距離と時間をしっかり覚えておきましょう。避難場所が遠い場合には、近くで一時避難できそうな場所を探しておくのもよいでしょう。

準備するもの

まちなか探検をスムーズに進めるために、次のものを準備しておきましょう。

- 街区地図（A4サイズ程度）
- カメラ（デジタルカメラなど）
- ペン、ノートなどの筆記具



マップ作成の際には、次のものを準備しておきましょう。

- 模造紙、下敷き用の新聞紙
- 街区地図（A3サイズ程度）
- 撮影した写真 ※無くても可
- カラーペン、マジックセットなど
- マークシール、付箋紙など
- はさみ、のり、セロテープなど

お問い合わせ先
一般社団法人 日本損害保険協会 業務企画部
TEL：03-3255-1215 FAX：03-3255-1236

ぼうさい豆知識

これだけはやっておきたい防災対策

●家具などが倒れるのを防ぐ

タンスや本棚、ピアノなどの家具は地震によって倒れることのないよう、L字型金具などを使ってしっかりと留めておこう。また寝ているときに倒れてこないよう、配置に工夫しよう。

●非常持ち出し品／非常備蓄品の用意

リュックサックなどに入れておき、避難しなければならぬときに持ち出す「非常持ち出し品」と、避難後の生活をささえる「非常備蓄品」に分けて備えよう。



非常持ち出し品

非常備蓄品

●水の確保

一人一日あたり3リットルの水が必要。飲む以外にも、ものを洗う・火を消す・トイレで流すなどいろいろなところで使うので、お風呂の水はいつも張っておくようにしよう。

●災害に備えた家族会議をしよう

近所の避難場所の確認をはじめ、かけやブロック塀など危険な箇所のチェック、非常時の連絡方法などをあらかじめ決めておこう。また、いざというときに助け合えるのは、やはり近所の人たち。ふだんから近所づきあいを大切に、防災訓練などには誘い合って参加しよう。

●地震保険に入っておく

地震による被害への経済的な備えとして、地震保険に入っておこう。